

餌であるからむしる保護を要する。

タニシ 一時は絶えていたが、最近によく見かける。稲の幼苗を食害するので駆除を要する。

キセルガイ 陸産の巻き貝の一種。木に登るものや落ち葉・石の間に棲む。戦前まではよく見かけ大木の根元に群がっていたが、現在では全く見ない。

## 六 カメ類

イシガメ 池沼・川の浅い所や山地の谷川沿いに居る場合もある。それにしても当地方ではそうざらにいるわけではない。

スッポン 水中の泥に棲む。自然界のものは右と同じくめったに見ない。崎山の古門亀修庵は専門に飼育している。

## 七 その他

カタツムリ 普通デンデン虫とも呼ばれ、よく見かける。「つのお出せ、やり出せ」の懐かしい童謡の愛嬌もの。

ナメクジ 殻が退化したカタツムリの一種。畑や朽ち木や家屋の内外、特に湿った所を好み、夜行性であるので駆除にてこずる。

ミミズ 雌雄同体の環形動物。落ち葉やゴミ溜めに棲む。掘り出して魚釣りの餌にする。

ヒル 水田や小溝に多くいる。伸縮性に富み前後に吸盤があり人間に吸いついて血を吸う。

ウジ ハエの幼虫。腐った物や不潔な場所にハエが産みつけた卵によって発生する。

ムカデ 藪中や落ち葉の下に棲む。節足動物で猛毒があり、咬まれるとひどい痛みを覚える。農作物の害虫を食べるので益虫。

ゲジゲジ ムカデに似た節足動物、猛毒は無いが頭を這えば毛が抜けるという言い伝えがある。ムカデより数は少ない。

ダニ 動物の毛の中、畳のほこりの中、山中の木から落ちて人間にくダニなど種々あるが、最近では薬剤散布や掃除機の普及でほとんどなくなった。

### 参考文献

『英彦山』(田川郷土研究会)、『福岡県植物誌』(福岡県高等学校生物研究会)、『原色野草図鑑』(保育社)、『学研生物図鑑』(伊良原ダム環境調査報告書)、『福岡県の植物』

## 第二節 植物

### 犀川町の植物相

英彦山を頂点として、放射状の山系が北方に延びており、築上郡境の山並みや蔵持山・帝釈山から大坂山に連なる山並みが犀川町を包み、その谷間をうるおして今川・碓川が周防灘へと注いでいる。

犀川町の総面積は九七・九七平方キロメートル、その七割は森林と原野であり、そこに生育している植物は三〇〇種以上もあるだろう、それを逐一掲記することは至難の業であるから、常識的な一般調査の範囲になるこ

とを了承願いたい。したがって、ここに記していないから存在しないというものではない。

犀川町の植物相は、県内各地に比べて特異な存在や生態を示すものはなく一般的だと言えるだろう。ただ言えることは先にも書いたように郡内で最も豊富な存在であることだろう。

まず河川については今川の本支流はいずれも、アシ・スキなどの群生でいっぱい占められて、その間を縫って水が流れている状態である。祓川でも全く同じ様相を示している。夏季に至っては浮藻が発生しているのがよく見られる。

両岸の堤防にはスキ・チガヤ・セイタカアワダチソウなどが繁茂している。また今川は柳瀬附近から、祓川は犬丸附近から上流にかけて、シノダケの密生がありこれは護岸の役目を果たしている。

鉄道線路の土手には、チガヤ・アワダチソウがはびこり、その間々にヨモギ・エノコログサなどの雑草が多い。夏のころ田圃に目を転ずれば田の畦はマンジュシャゲが真っ赤に燃えて美しい風景を描く。

山林については、標高二、三百の山々はクスギ・ナラなどの落葉樹やシイ・カシその他の雑木常緑樹が多く、モウソウ竹林もかなりの面積を占めている。植林の進んでなかったころは山の頂上附近一帯は野原であり、その場所は干草野といわれ牛馬の冬の食糧として刈り干しをする大切な野であり、またそこにはセンブリやアカナバなどが生えササグリの生産もあったが、今は全く無くなり植林地となってしまった。伊良原地区の山々は麓から植林され、どの山を見てもスギ・ヒノキの美林の緑が美しい。その緑が犀川町のシンボルであり、檜は町の木として指定している。

大正・昭和年代に植林が奨励されたがその後の社会情勢の変化により、植林は大成功とはいえないが、その努力は無駄でなく数十年を経た今日では素晴らしい美林を形成、本町南西部の森林美は見事である。上高屋の橋八幡神社裏手の檜林は森林美百選に入選したほどであったが、平成三年の十九号台風の大被害を受け残念ながら失われた。

最後に本町の目玉である本庄池に触れてみる。当地は低い丘陵に囲まれた周田四ツ木の池を中心に観光地化しつつあり、周辺はコマツ・ナラ・クスギ雑木の二次自然林であり、かつては堤防の一部にナンバンキセルやワレモコウの群落もあり植物の宝庫であった。群落と言えはかつて新柳瀬橋の附近にガマ（因幡の白兔の伝説にあるガマ）の群落も見られたが川の浚渫によって絶えてしまった。こうした人為的な営みが自然を破壊することにつながるのである。それだけでなく最近酸性雨・光化学スモッグ・排ガス等で環境破壊が進んでいる。貴重な自然を大切にしたいものである。

要領を得ない植物相になったが、以下犀川町内自然界の植物についてその大略を挙げてみる。

- 草本類
- |   |                |
|---|----------------|
| 1 | 路傍などで見かけるもの    |
| 2 | 畑地・低地などで見かけるもの |
| 3 | 山野で見かけるもの      |
| 4 | 高地で見かけるもの      |
| 5 | 水辺で見かけるもの      |

1	食用となるもの
2	觀賞用となるもの
3	低木灌木に類するもの
4	高木喬木に類するもの
5	水辺で見かけるもの

竹本類・きのご類・しだ類・藓苔類

一 草 本 類

(一) 路傍で見かけるもの

- アザミ 日当たりのよい草地に生え多年草、花期は五月〜八月。  
 イヌフグリ 二年草、下部で枝を分け地面を這う。花期は三月〜五月。  
 ウツボグサ 多年草、花が終わると花穂は黒くなる。花期は六月〜九月。  
 エノコログサ 一年草、別名ネコジャラシとも言う。  
 オオバコ 多年草、オシベは長く子供の力比べで遊ぶ。花期四月。  
 カタバミ 多年草、葉はハート型、花は夜二つに折って眠る。花期五月。  
 キンポウゲ 多年草、花は黄色で八重咲き、一重咲きはウマノアシガタと呼ばれる。花期は四月〜六月。  
 ゲンノショウコ 多年草薬用植物、最近少なくなった。花期八月〜九月。  
 ギンギンシ 多年草、子供のころよく食べていた。花期六月〜九月。  
 スイバ 右に同じ、帰化植物のアレチギンギンは根絶に手をやく。
- スギナ トクサ科の多年生シダ植物。長く横走する根茎から直立した地上茎を出し輪状に枝を出す。春、淡褐色の胞子茎を出す。これがツクシ。  
 スミレ 種類が多い。普通のもの茎がなく根ぎわから葉と花が出る。セイタカアワダチソウ 帰化植物で地下茎で繁殖、大群落をつくる。花粉症の原因ともなり、根絶は不可能という厄介もの。花期十月〜十一月。  
 タンポポ 花は黄で夜になると閉じる。春を告げる花。花期は三月。  
 ナズナ 春の七草、別名ベンペン草、二年草。花期三月〜五月。  
 ニガナ 多年草、茎の汁が苦いのでこの名がある。花期五月〜七月。  
 ネジバナ 花が茎にらせん状につくのでこの名がある。花期五月。  
 チガヤ 多年草、繁殖力強靱、雑草の親分。花期五月〜六月。  
 ヨモギ 多年草、草餅の原料、あるいは乾かしてモグサになる。  
 ヨメナ 多年草、ノギクの一つで食用になる。花期八月〜十月。  
 ハハコグサ 二年草、春の七草、別名ゴギョウ。花期四月〜五月。  
 チカラシバ 多年草、大きな株をつくり毛槍棒のよう。花期八月〜十月。  
 コニシキソウ 一年草、帰化植物、地面に這いつくばる。花期七月。  
 イチゴツナギ 多年草、茎は束生し花は円錐花序。花期五月〜七月。  
 カラスノエンドウ 二年草で草丈六〇センチ余、根ぎわから数本枝を出し、先端は巻きひげ、花が終わるとエンドウ豆そっくりの実。花期四月。  
 シロツメグサ 多年草、帰化植物で最近やたらに繁殖してこずる。地表を縦横に這うつる性、クローバーと呼ばれる。花期四月。  
 ヘビイチゴ 多年草、名前どおりでなく蛇はこれを食べない。毒性は

無い。花期四月。

(二) 平地・畑地などで見かけるもの

アカザ 一年草、生長した茎は軽いので老人の杖に。花期九月十月。  
イラクサ 多年草ミヤマイラクサなど同種多し。俗にパッチンとも言う。

イヌホオズキ 一年草、ナス科、花後丸い実をつけ熟すと暗紫色になる。

イノコヅチ 多年草、ヒナタイノコヅチとヒカゲイノコヅチがある。

いずれも果実は動物や人の衣服につき繁殖手段の妙。花は八月。

イタドリ 多年草、茎は円柱形で中空、若茎は食用となる。花期七月。

オドリコソウ 多年草、茎は四角形。花期四月～六月。

カヤツリグサ 一年草、茎は四角に割れるので子供の遊びになる。花期十月。

カンナ

多年草、徳川中期に移入された帰化植物。花期は夏秋。

ススキ 秋の七草「尾花」のこと、別名カヤ。花期八月十月。

クワグサ 一年草で荒地地、畑に多くよく引きやすい雑草。花期八月～十月。

コオニタビラコ 二年草、春の七草、別名ホトケノザと言うしカスミン

ウとも言う。柔らかい草。花期四月～六月。

タデ 一年草、辛味があるので幼苗は刺し身のつまにする。花期六月。

ドクダミ 多年草、別名十薬と言ひ薬草としては周知のとおり。花期六月。

ノギク 多年草、正確にはノコンギクであり同種が多い。花期八月。

ヤブカンゾウ 多年草、別名ワスレグサ、帰化植物。花期七月。

ミツバ 多年草、香りがよいので種々の食用に供せられる。

ヒガンバナ 多年草、別名マンジュシャゲその他たくさん俗称がある。例えば花時に葉(母)がないのでステゴバナ等である。

ヒエ 一年草、稲の渡来前は粟と共に重要な食料だった。現在は稲田

の邪魔物だが農薬で除去できる。

△その他▽

ホオズキ・レンゲソウ・ユキノシタ・ワスレナグサ・ワレモコウ・ノビ

ル・ミチヤナギ・ミズヒキ・チドメグサ・ツユクサ・ハルジオン・ノ

ゲン・ヤエムグラ・コミカンソウ・シバ・リンドウ

(三) 山野で見かけるもの

アマドコロ 多年草、ユリ科で葉のつけねからスズランのような花を

つける。花期は四月～六月。

アマチャヅル 多年草、葉をかむと甘い。最近では薬用に栽培している。

オニドコロ 多年草、山芋に似ているが地下の芋は食べられない。

オミナエシ 多年草、秋の七草、茎の先に黄色の花をつける。花期八

月。

オトコエシ オミナエシに似ているが花は白く茎葉に毛が多い。花期

は夏から秋。

ウド 多年草、日に当たらない若芽は食用とし珍味。

カラスウリ 多年草、つる性で雌雄異株、白い花は夕方開き夜明け前

にはしおれる。果実は晩秋になれば真っ赤で人目を引く。花期八月。

ギンリョウソウ 暗い林の落ち葉の下から白い不気味なもろい芽を出す。花は先端に下向きに一個つける。別名ユウレイダケという。

クズ 多年草、つる性ではびこる。根から葛粉を採る。花期七月〜九月。

ヤマイモ 多年草、いわゆる自然薯である。

シヤガ 多年草、アヤメ科、別名コチヨウバナ。花期四月〜五月。

センブリ 越年草、原野の少ない今、採集困難となった。花期九月より。

ナンバンギセル 一年草、山地に生えるススキなどの根に寄生する。茎は短く地上に出ない。葉も退化して無く葉緑素を持たないので全体が赤褐色である。本庄池にその群落を見る。珍しい植物だから大切にしたい。

△その他▽

ナデシコ・ヒルガオ・ヒトリシズカ・フタリシズカ・ヘクソカズラ・フキ・ホタルブクロ・ヤブニンジン・ヤブジラミ・ヤブマオ・リンドウ・ヤマユリ・ヤマハギ・マムシグサ・シユンランなど

④ 高い所で見かけるもの

イワヒバ 常緑シダ植物、俗にイワマツと言う。高山の岩壁に群生し枝は乾くと内部に巻き込み、湿ると開く。觀賞に用いる。

エビネ 深山の林の下に生える多年草、花の色に変化が多いので、山草家が好んで採集し栽培する。乱獲で減少した。

セッコク 多年草、ラン科に属する。岩または古木につく。夏季に茎の頂上部に白色、淡紅色の花をつける。薬用に供する。

⑤ 水辺で見かけるもの

アシ 多年草、アシは語呂が悪いのでヨシと呼ぶことが多い。刈り取ってすだれやよしずを作る。薬用にもなる。花期は八月。

アヤメ カキツバタ、花菖蒲など同種が多い。花期四〜六月。

ガマ 多年草、ヒメガマ、ヨガマなど同種である。茎の先端に円筒状の花穂をつける。柳瀬にその群落があったが川の浚渫により無くなった。花期六〜八月。

オモダカ 多年草、雌雄同株で下方に雌花、上方の節に雄花をつける。別名ハナグワイと言う。クワイと同種。花期六〜九月。

ウキグサ 多年草、秋に枯れるが越冬芽で翌年春水面に浮かぶ。

スイレン 多年草、花は春から秋まで咲き続け朝開いて夜は閉じる。

セリ 多年草、春の七草で広く食用に供せらる。花期七〜八月。

ジュズダマ 多年草、東南アジア原産、日本に入ったのは古い時代で野生化した。同種のハトムギは栽培されて薬用となる。

ハス 多年草、地下茎はレンコンとして広く食用に供せられる。

ヒシ 一年草、とげのある果実は食用。近ごろめったに見ない。

フジバカマ 多年草、川土手などに生える、秋の七草。花期八〜九月。

ミゾソバ 一年草、草姿がソバに似ているのでこの名があり、花期八〜十月。

ミズアオイ 一年草、水田に生えるが柔らかいので取りやすい。

ミズオオバコ 一年草、紫紅色の花を水面に開く。

ミズカヤツリ 多年草、池沼、溝に生え根茎を伸ばして繁殖する。

マツモ 多年草、沈水性で根は無く茎は柔らかく金魚鉢によく入れる。

オオフサモ 多年草、水中に群生する。根は長く泥中に張る茎は太く、上部は立ち上がり水面に出る。

## 二 木 本 類

### (一) 食用となるもの

アケビ 山地に自生するつる性、秋に果実となり割れて甘い。開け身の意からこう名付けられた。

アンス 原産は中国北部。春早く葉より先に花をつける。

イチジク 今はほとんど栽培種で店頭に出回り人に喜ばれる。

ウメ 日本には遣唐使により移入されたといわれる。早春の観梅はまた格別の風情がある。梅干し、梅酒など用途は広い。

カキ 赤い柿の実は山里の象徴的な風景、しかし最近の食生活が豊かになり子供等も食べようとしなない。上質のものが店頭へ出る。

キンカン 花は年二回つくが主に夏のものが冬に熟し薬用にもなる。

クリ 栗拾いは楽しい秋の風物詩だが、食べるにはいがをむき、堅い皮やしぶ皮を取るなど手間のかかる果物である。

グミ 日本原産、夏グミは四月に花、六月に熟し、秋グミは十月ごろ鈴なりになる。朝鮮グミは栽培される。

クチナシ アカネ科の常緑低木、花は初夏に咲き白色で芳香があり染料にする。

クコ 山野にも自生、秋になると紅色小球形の実をつける。枸杞酒は薬用。

ケンボナシ 当地方ではテンポコナシと言う。今は実在がまれである。

サンショウ ハジカミともいう。果実は香辛料で枝に激しい棘がある。家庭用には棘のないアクラサンショウを栽培すればよい。

サクランボウ 主として東北地方に多い。当地方にも実は小さいが存在する。

ザクロ 果肉は甘酸っぱい。根皮、果皮は乾かして薬用とする。

ダイダイ 暑さ寒さに強い。一樹に三代の果実を見ることが出来る。

チャ 山野に自生するが茶所として大量に栽培する。家庭での藪茶つみも捨て難いものがある。帆柱の茶は犀川の特産物である。

ブドウ 生食のほか、ブドウ酒・干しブドウ・ゼリ！等利用価値も広い。改良された種無しブドウ・マスカットは秋の味覚の王様。

ビワ 果実もうまいが、肉質の厚葉は最近、薬用としてブーム。

マタタビ 伊良原・帆柱附近の深山に自生している。果実はギンナンに似ている。強精剤として神秘的な効果があるとされる。

ナシ 野生のナシの木が多かったが今はほとんど見当たらない。

△その他▽

ミカン・モモ・ヤマモモ・ユズ・ユスラ・イチヨウ等、食用となるものが多く列挙せられる。

### (二) 観賞用となるもの

アジサイ 落葉低木、幹は根から叢生、高さ一・五m、葉は広卵型で対生。六、七月ごろ球状の花を多数つける。

カイツカ 剪定により枝振りが作りやすい。庭内や生け垣に利用される。

キョウチクトウ 初夏より秋にかけての花は美しいが、茎や葉から出る